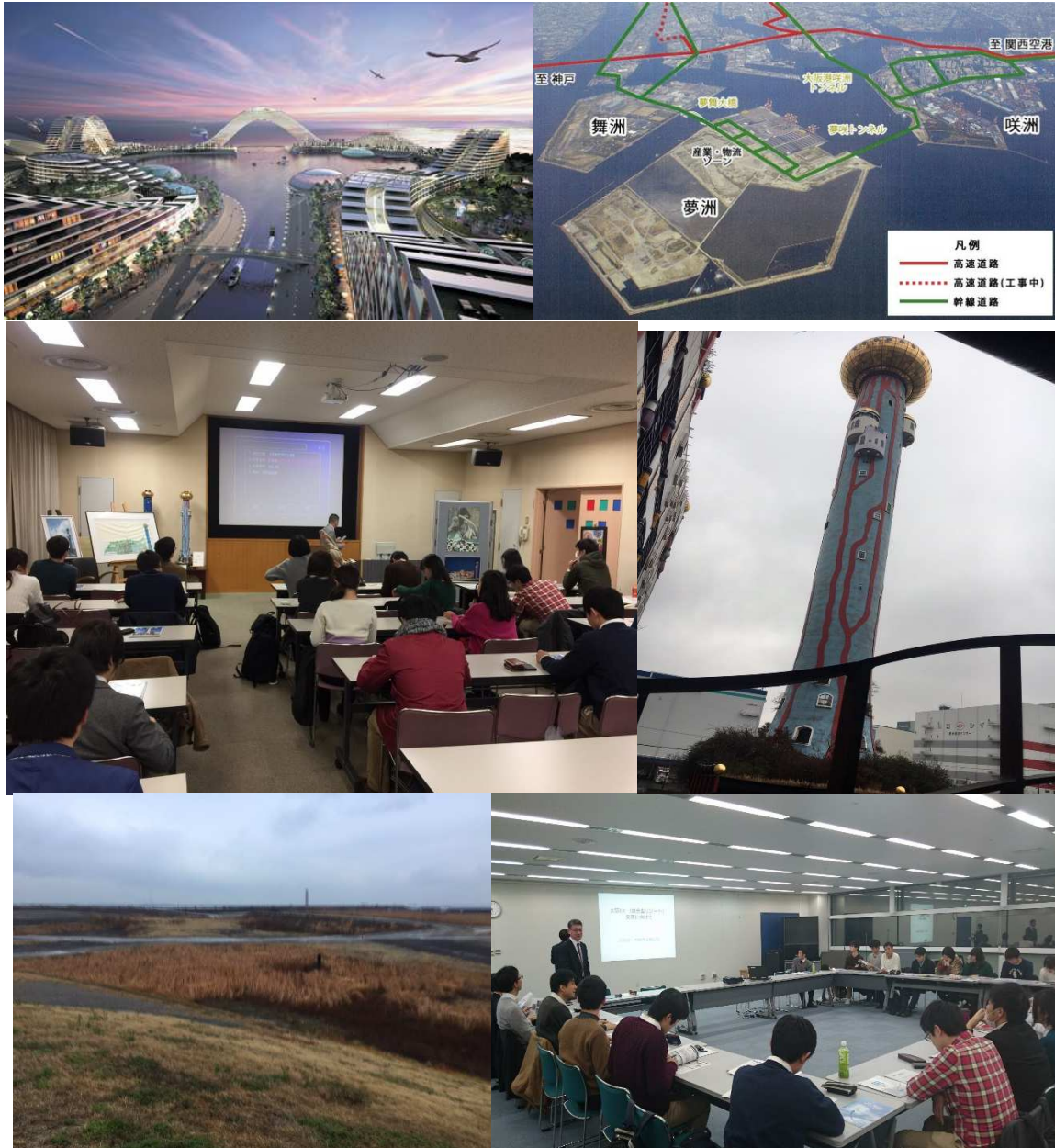


# 大阪舞洲工場・夢洲 IR 視察ツアー

訪問日時:2018年1月22日 午後2時から午後6時

参加者:大阪大学赤井ゼミ20名、引率教員4名





- 13:15 JR 桜島駅改札集合
- 13:30 バス乗車(②舞洲アクティブバス:前乗り、後払い、両替は車内で)
- 13:37 バス下車(環境局前)
- 14:00-15:30 舞洲工場見学
- 15:30-16:00 夢洲へ移動
- 16:00-16:30 夢洲視察
- 16:30-17:00 咲洲庁舎へ移動
- 17:00-18:00 意見交換会
- 18:20 コスモスクエア駅:地下鉄
- 18:50 森ノ宮駅
- 19:00-21:30 交流会@中華あかまつ



**大阪港IR視察参加者名簿**

	学年	名前
1	教員	赤井伸郎
2	教員	倉本宜史
3	教員	橋本浩幸
4	教員	金坂成通
5	D2	小佐野祐一
6	D2	新堂翔太
7	B4	秋富紗衣
8	B4	神田美香
9	B4	神戸麻希
10	B4	杉山寛幸
11	B4	鈴木創也
12	B4	松本侑馬
13	B4	山田怜美
14	B3	唐井優希
15	B3	佐伯駿介
16	B3	中村優花
17	B2	伊藤拓真
18	B2	大石洋
19	B2	沖田菜緒
20	B2	法川真耶
21	B2	廣瀬ころも
22	B2	水野真人
23	B2	藪下文也
24	B2	横瀬愛



2018年1月、大阪の港湾地区にある二つの人工島を訪問した。一つは、舞洲であり、もう一つは、さらに海側にある夢洲である。舞洲は、スポーツ施設や工場が立地し、大阪の産業、スポーツリクリエーションを支えている。その中に、大阪屈指の規模を誇るごみ焼却場(舞洲工場)がある。この工場は、その中身よりも、外観が有名である。オーストリアウイーン出身の有名デザイナー「フリーデンライヒ・フンテルトヴァッサー氏」デザインによる建築であり、すべての部分が丸みを帯びておりテーマパークのようである。焼却場を思わせない外観であり、周辺地域に、焼却場が生み出す独特の雰囲気は無い。その意味では、街に溶け込んでいる。さらに、話題性も高く、大阪住民に焼却場への興味を持つきっかけともなっている。見学コースも凝っており、焼却場の仕組みやその意義が楽しく学べる。コストをかけすぎという批判もあるが、焼却場の意義を知ってもらうという効果も出ていると言えるだろう。次に向かった夢洲は、さらに沖合いに埋め立てた島であり、現在、巨大なコンテナポートが稼働している。その他は、広大な空き地となっている。この空き地を利用して大阪の産業を発展させようとしてきた歴史が感じられる。この広大な土地をいかに有効に使うのか。今まさにそのチャンスが来ている。IRの誘致である。カジノを含む統合型リゾートである。市街地からは隔離されており、カジノによる弊害を最小限にとどめるのにも適している。有効活用に期待したい。最後に、既に開発されている咲洲にある大阪府の咲洲庁舎で、IRの意義、誘致の戦略、さらに、大阪の成長について意見交換を行った。成長戦略は大事であるが、「副首都」という目標を掲げている一方で、その定義が不明確なことには批判的な意見も多く出た。成長戦略のゴールをどの様に決めて進むのか、引き続きの議論が楽しみである。学生は、工場の現場、広大な空き地の有効利用あり方、大阪の成長戦略のゴールの立て方など、大阪が抱えるさまざまな社会問題を考える良い機会を頂いた。学生にとっても成長につながっただろう。学生の意見は、以下にまとめることにする。

文責:引率教員

## **「舞洲工場視察において感じたこと**

### **（住民に親しまれやすい外観、ゴミ工場の設備、ゴミ工場の社会的意義などなど）**

1. 「技術と自然の共生」をコンセプトにした建築物ということでしたが、技術を進歩させていきつつも、有限でかつ強大な自然を人間がどう立ち向かっていくか、その世界観をゴミ処理場のデザイン上で表し、メッセージを込めるという発想が素晴らしいと思いました。また、ゴミ処理場そのものも、効率性や環境を考慮した構造になっていることに加え、大阪市内で唯一の粗大ごみ処理施設を有していること、更には東日本大震災の震災廃棄物を処理されたことなど、大阪だけでなく日本社会にとって大きな存在であることもわかりました。今後メーカーに勤めていく者として、これからの社会にふさわしい技術力を磨いていく一方で、産業廃棄物など環境に配慮しなければならないことも痛感しました。
2. 一番に、その特徴的な外観に圧倒された。地域や社会との共生を目指す歩行者デッキや、小学生から大人までわかりやすく豊富な知識を与えてくれる見学通路の整備は、そのほかのごみ処理場とは一線を画するクオリティだと感じた。また、その大きな特徴である外観だけでなく、ゴミ処理能力としても大阪市を支える大規模なものであり、わたし自身の将来の仕事にもたいへん勉強となるようなところがたくさんあった。
3. 今後、自然と調和するようなゴミ工場というコンセプトが、日本においては先進的で興味深かったです。ゴミ処理は日々の生活に密接に関わっているにもかかわらず、わたしたちの生活の中でゴミ工場について意識することはあまりないと思います。そのような中で、今回のゴミ工場のような行政の施設がその斬新な外観を糸口として、住民だけでなく、他の地域や海外の方まで訪れてもらえるというのは非常に有意義なことだと感じました。今後、行政の施設が単にゴミを処理するなど目的を達成するために作られるのではなく、持続的で周りとの調和や住民の方からの理解をもらえるような施設を作っていくことが重要なのではないかと思います。その点で、今回のゴミ工場は非常に勉強になりました。ありがとうございます。
4. 見学する前は本当にあの外見は必要なのかと感じていたが、小学校の社会科見学などで年に1万人以上の見学者が居ると聞き、住民のごみ問題に対する意識を刺激する効果があることがわかりました。今後もこのような効果が続くといいと思います。
5. 舞洲工場の派手な外観や内装について、デザインを手がけたフリーテンライヒ・フンテルトヴァッサー氏が「自然との調和」を目指して曲線や同じ形の柱が存在しないように建設されたと伺いました。その点を住民の方々にも理解してもらえれば、年間1万人以上もの人々が訪れる施設ですから、この舞洲工場は社会的にメッセージ性の強い施設であると感じました。ゴミ工場は必要不可欠なものであり、舞洲工場のように、単なるごみ処理場にとどまらない、自然との調和を将来の子どもたちにも伝えることができる、非常に意義のある施設だと思います。

6. 舞洲工場においては単なるごみ処理施設としてではなく住民理解、大阪へのオリンピック誘致の一環として整備されていると伺った事が印象に残っています。世界的にも有名なフンテルトヴァツサーの作品である特色を生かして、インバウンドの取込みや万博誘致にも役立てていくべきであるかと感じました。
7. 税金の無駄遣いと揶揄されることの多い工場なので、建設にはさぞかし高い費用が掛かっているのだらうと思っていたが、話を聞いてみると一般のゴミ焼却場と比べて特段建設費が高いわけではないということだったので、先入観と見た目、報道が先行してしまっているなと感じた。ただそれにしても外装だけでなく、内装まで豪華にする必要はあったのかという疑問は残った。
8. 非常に多くの量・種類のゴミを引き受けて高度なシステムで処理を行っていることやそのプロセスを見学して知り、ゴミ処理場が生活になくてはならない施設であることを、初めてはつきりと理解できたように思える。また、特徴的なビジュアルに「税金の無駄遣い」とよく叩かれていることは知っていたが、それが実際はさまざまな配慮や考えに基づいていることを知り、どうしても必要なのに自分の近くにはいない、といういわゆる「迷惑施設」が地域に受け入れられることの難しさを改めて感じた。しかし、1万人以上の見学者がいるなど、ゴミ処理場などの「迷惑施設」としては他と一線を画した珍しい施設である。そのため、その珍しさを活かして、より国民に今のゴミ処理技術の進歩やその必要性を訴えていく役割を果たして欲しいと思う。
9. ごみ処理場の外観に工夫を取り込み、親しみやすいデザインにするというのはかなり面白い取組みだと思った。しかし、あの地域が住宅と隣接するといえるほど住民がいるとは感じられず、行政としてそれを対象にして外観にこだわる必要があるのかという疑問が残った。設備に関しては、これまでのごみ処理場見学で見たことのない粗大ごみの回収作業を見学出来たことが印象的だった。
10. 社会には必ず必要であるが、整備段階になると地域住民から歓迎されないごみ処理場を、住民に親しまれやすい外観にするという考えは理解できるが、離島にあり、配慮すべき地域住民もいないような舞洲のごみ工場を、巨額の税金を投じてまでこのような派手な外観にする必要があったのかという疑問は最後まで拭えなかった。しかしながら過ぎたことはどうしようもないので、今後は、ごみ処理を通じて社会に向けてごみの減量を啓発するごみ処理工場であってほしいと思う。その外見で注目を集める舞洲工場であればこそ、社会に向けた発信力は大きいのではないかと感じる。
11. 外観へのこだわりを感じた。しかし、デザインにやはり時代を感じるものがあり、ひとつ前の世代のものという印象が強く残った。ごみ処理場のデザインを重視する意義はとても分かった。たしかに有害に見えるごみ処理場があるよりは、デザインに凝ったごみ処理場のほうが良いと思う。前述のように時代を感じるデザインなので、90年代のデザインをテーマにした展覧会などを中で行えるようにすると盛り上がるのではないだろうか。

12. 一番最初に受けた印象は、「テーマパークかつ！」でした。と同時に「こんな絶対税金の無駄やろ」って思いました。ですが工場長の話を知ると、外観の割には、費用がそんなにかさんでいないということで驚きでした。ただ幻の煙突については本当に無駄だと思いました。初めてあれだけの規模のゴミ処理施設を見学して、圧倒されました。特にゴミをクレーンで運ぶ工程は圧巻でした。またこれだけのゴミが大阪の一地区から出ているのかと思うと、ゴミについて敏感にならざるをえませんでした。また社会見学施設として、子どもたちにも興味を引くような展示がなされており、見学したこちらとしても非常に楽しかったです。一つ心残りだったのは実際に作業されている方のお話も聞きたかったです。
13. 外観がすごく個性的で、初めて見たときはここがゴミ処理場だとは思えませんでした。自然界を意識して、直線を極力使わず曲線を多用している点がおもしろいと感じました。工場長の説明とビデオから、ゴミ処理場の設備や仕組みがよくわかりました。また、工場の中も、小学生にもわかりやすく興味を持ってもらえるようなつくりになっていて、終始楽しみながら知ることができました。大人も工場見学を行う意義は十分にあると感じました。
14. 舞洲工場視察での説明を聞き、舞洲工場はゴミ処理施設としての機能だけではなく、地域の人々の活動の場となったり、国内外問わず観光客向けの名所としての機能も備えているということを知った。今後、日本で様々な施設が建設されていく中で、多機能性を備えた施設は、長期にわたって経済効果を発揮する可能性があると思うので、市民や外国人観光客の方のニーズに合った、長期間の利用を見込める施設の設計を行うべきだと感じた。
15. 以前知り合いから、舞洲のゴミ処理場の外観が奇抜という話を聞いており、どのようなデザインなのか気になっていた。実際に行ってみると、建てられてから17年が経っており緑も育っていたので、周りからかなり浮いていることはなく、市民の方にも親しまれているのだらうと感じた。内部の見学では、小学生でも楽しめるように様々な工夫がされていることが分かった。一昨年豊中市伊丹市クリーンランドの見学に行った。大阪市と豊中市では、設備はほとんど同じように見えたが、施設の見せ方がかなり違っていると感じ、隣同士の自治体でも特色が違っていると感じた。

## **IRカジノ予定地およびIRカジノ誘致の価値について感じたこと**

1. 香港やマカオを昨夏に訪問し、カジノのマーケティングを行い経済活性に生かしている状況、治安対策を十分に行っている状況を見させて頂きました。香港マカオの観光のブランド力に魅了されている人が世界中で増えている理由も実際に街を歩いてみてよくわかりました。それに比べると、今の大阪のIR推進案は、観光地としてどう日本や大阪をアピールしていくのか、IR及びカジノ誘致を通じてどういう大阪を目指していくのが伝わりにくく、またそのビジョンがまだ日本国民、特に大阪府民に理解されていないと感じました。「観光立国」を標榜するのであれば、日本らしさをどうアピールしていくのかというところに重きをおいて議論する必要があると思いました。

2. 個人的には、今大阪は観光都市として大きな飛躍を遂げている真っ最中であり、京都といったもともと集客力のある地域との連携も踏まえうまく行けば、この IR 事業は関西経済圏及び日本経済の大きな起爆剤となりうる。さらに、誘致が進み実際に大阪に建設された場合、税収として大阪のインフラ再整備や社会福祉への投資がより一層柔軟になると考える。住民にとってもメリットのある事業であることを懇切丁寧に住民説明していき、ぜひ誘致を成功させてもらいたいと思った。
3. 初めて IR の予定地を実際に見学させていただいて、全く何も無い場所であることに驚きました。収益性の高い施設としてカジノを誘致することでしたが、個人的には、本当にカジノでなければ十分な収益を確保いけないのかと少し疑問を抱きました。もちろん IR はカジノだけではありませんが、IR=カジノという印象が強いなかで、カジノに対して嫌悪感を持つ方を説得するのは大変そうだと思います。あと、他の国ではカジノや IR が成功しているからそれを追随しようとする後追いな姿勢で考えるのではなく、新しくまだない需要を掘り起こせるような施設を作ろうと奮起してほしいと感じました。"
4. IR におけるカジノは数ある施設のなかのほんの一つだと思っていたが、職員の方のお話によると収益を高めるためにはカジノが最も重要であると分かりました。話を聞く限り、外国人観光客を対象とするようでしたが、どれくらいの外国人観光客が日本でカジノをやりたいと感じているのかが気になりました。
5. IR は世間一般的にはカジノのイメージが強く、IR→カジノ→ギャンブル等依存症の人や犯罪の増加→悪いもの、といった風潮があるなかで、他にもどの世代もが楽しめる要素が多くあることを考慮すれば、誘致することによって得られる経済的利益は非常に大きいと感じています。また、予定地である夢洲は想像以上に広大な土地であることから、是非ともその土地に IR を誘致して有効活用してほしいと思いました。
6. IR カジノ誘致においては、旅行者消費額が 1.3 倍増加する等の説明などから関西経済に大きく寄与する大変価値あるものだと理解できました。以前、ゼミの中で澳門大学のカジノ経営の研究者の方とお話した際に関西がカジノ予定地としてのポテンシャルを十分に保持していると伺った事、ラスベガス・サンズや MGM リゾーツ・インターナショナルなど外資系の多くの企業が関心を示している事からも、それが伺われると考えます。一方、住民の過半数の理解が得られていない事からカジノに対する具体的な検討課題などを解消しつつ地道に理解を促進していく事が重要だと考えました。
7. IR カジノ予定地は本当に何も無い更地であり、そこが開発されていくこと、そしてまだ大阪に手付かずの土地が残っていることに驚いた。この前の授業の日本政策投資銀行の話でも出たことだが、関西は外国人観光客数が年々増加しており、観光客は多くのお金を落とし、観光は裾野の広い産業であることから、関西の成長のためには観光振興が重要である。自分はその点で IR カジノを誘致することには賛成だと考える。
8. 予定地は現在本当に何も存在しておらず、また実際に車で走るととんでもなく広大な土地であることを実感した。こんな大阪という都会のど真ん中に、これから全く自由に開発でき



る土地がある、ということ自体がまず大きな価値であると思う。そこにまた日本初の IR カジノが入るとなると、大阪の価値、関西の価値はますます向上するだろうと感じ、未来にわくわくするような感情を覚えた。IR カジノは、国会や世間でも大いに議論があるが、私個人としては、今回の視察を通して「どんどんやってほしい」という思いが強くなった。確かにギャンブル依存症や治安の悪化などは大いに懸念事項であるが、そもそも日本での IR カジノは日本人よりも外国人観光客への訴求力が高いものであり、外国人観光客の急増やグローバルビジネスの急激な発展などの流れを考えると、日本で全くのグリーンフィールドである IR カジノを導入することの経済的影響力は計り知れないほど大きいだろう。法や地域の反対など、実現まではまだまだ大変だと思うが、大阪で初の実現となることを心より願っている。

9. シンガポールを事例に出しておられたが、他の都市での例は存在しないのか。というのも、もともとシンガポールは交通の要所として需要があり、そこに人が来るからこそレジャーとして IR 施設の客数を稼ぐことができたと考えられる。しかしながら大阪はそういう役割の都市ではないので、比較対象としては他の地域も資料に記載すべきではないかと考えられる。
10. IR カジノ予定地を見学し、現在工事中であるとはいえ、立地、アクセスの悪さが目についた。今後土地の買い手が現れることが想定しづらいことを勘案しても、この「負の遺産」を万博のような一過性のものだけでなく、IR のように長期的に利用することは大変意義のあることだと感じた。また、IR に関する議論において、カジノが社会に与える負の側面が強調されるが、いわば社会から隔離されたような夢洲は、市民から心理的、物理的にも一定の距離をおくことができ、そのような負の側面への対策が講じやすいのではないかと感じた。
11. カジノ予定地は、仮にカジノができなかった場合、他には有効に利用することができないのではないだろうか、と思わせるような場所だった。ぜひ誘致してほしいと思う。個人的にはカジノには反対していないし、パチンコに行くような層がカジノに頻繁に行くことも考えにくいので、ある程度の高級感の維持がポイントではないだろうか。ただし、観光客の増大につながったときに大阪にそれだけのキャパシティーがあることを確認する必要があるのではないだろうか。電車とかでも、私鉄が多いためか、車内での英語の案内が不足しているように感じる。
12. 最初はカジノ誘致に懐疑的だったけど、話を聞いているうちにやっぱり大阪には IR 整備が必要なんじゃないかと思うようになりました。やっぱり東京に肉薄し、かつ違いを生み出していくには、商業の街として、商いの側面を盛り上げていく必要があると思います。また近年急増する外国人観光客を惹きつけるには、やっぱり IR が最も良い手段なのかなと思いました。ただ、シンガポールをそのまま真似たような IR では成功しないんじゃないかなとも感じます。シンガポールは温暖な気候にあるからこそ、開放的になった消費者の手によって経済が回っているのではないのでしょうか。またそういう気候下では屋外プールや植物園などのリゾート施設を体験できます。しかし大阪の場合はそれと全く異なります。夏が暑い一方で、冬はちゃんと寒いです。ですがそれを逆手に取ることはできるのかなと思います。つまり四季の移り変わりを楽しめる新しいリゾート施設を整備するのです。その上で四季を最も魅力

的に表せるのは伝統的な日本建築だと思います。また日本の技術的發展もそこに交差させ、伝統と發展の融合たるリゾートを整備すれば、他のリゾート地との差別化が図れるのかなと思いました。まあこんなことは絵空事かもしれませんが、IRが無用の産物で終わらないようにするためには、事業者と行政間の創意工夫が大切になってくると強く思いました。

13. IR カジノ予定地は、今は本当に何も無い広大な土地で、これから誘致が実現すればどのように発展していくのか楽しみであるとともに、インフラを整えたり解決しなければならない課題がたくさんありそうに感じました。太陽光発電を行っているのを見つけて、それも活用していくんだろうなと思いました。また、カジノ誘致については、世論で批判も多く存在しますが、個人的には賛成です。行政の方の話を聞いて、やはり財政的な意味や近年増えている外国人観光客の需要を引き出すために有効であると思うからです。そのためにきちんと規制を設け、運用することが同時に大事になってくると思いました。
14. IR についての報道等で、どうしても日本にはまだないカジノを重点的に取り上げるため「IR＝カジノ」というイメージがどうしても払拭されず、反対している人が多いのではないかと感じた。外国人観光客が増加を続ける大阪において、経済効果が十分に見込めるIRの誘致に私は賛成であるが、まだまだ反対の人もいるため、竣工までに様々な課題があるが、いかに説得力のある説明を住民に対して行うかが鍵になってくると思う。年代層別に分けたパンフレット等で、IRについての正しい理解をもらうのがよいのではないかと。
15. IR 建設予定の埋め立て地はとても広かった。今はまだ何も無いが、IRが建設されると周囲の雰囲気もかなり変わるのではないかと感じた。大阪府・大阪市の方のお話を聞いて、IR誘致は大きな経済効果があるということが分かった。国内ではIR反対派が多いというお話だったが、国民はカジノへのネガティブなイメージが強く、誤った認識をしているところも多々あるのではないかと感じた。きちんと説明をしていけば、かなり納得感が高まるのではないかと感じた。IR実現が楽しみになった。

## **副首都ビジョンの意義と、大阪の成長戦略のあり方について感じたこと**

1. 東京一極集中を避けるために、大阪がもっと日本経済の成長を牽引する力をつけなければならぬという考えは、人口減少および少子高齢化に直面する日本にとってとても重要であると思います。実際に副首都実現のためのお話を聞き、副首都にすることによる機能や制度の変化、取り組みの内容はよくわかりました。しかし、副首都の明確な定義がない以上、大阪が副首都として日本にどう寄与するのか、そのビジョンやプロセスがイメージしにくいために、近隣の他府県や住民もわかりづらい部分があるのではないかと感じました。2020年以降も日本や世界の中で認知される都市として機能するために、「大阪らしさ」や西日本を巻き込んでいく力を追求すべきであると感じました。
2. 副首都ビジョンに関しては、前例のない取り組みであり、市民感情としては一度失敗した構想の焼き増しではないのか、という不信感もぬぐいきれないことから、その「副首都」という

たいそうなパッケージング、ネーミングが今後どのように作用するのか気になるところである。内容に関しては、今後の大阪についてハード面ソフト面、多方面からのアプローチを体系立てて網羅しており、わかりやすく感じたが、スケジュール、そのための予算などは若干の希望的観測も見受けられるように思った。府政の懐事情とキャパシティに照らし、細かい軌道修正と説明を行いながら進めて欲しいと思った。

3. 大阪府と大阪市が未来に向けて行っている具体的な施策をパッケージとしてきれいにまとめられていると思いました。その一方で、副首都という目標が非常に曖昧であり、定量的にも定性的にも達成できたかを評価できないもので、なかなか難しいと感じました。また、せっかく副首都を目指すならば、日本の政府などに働きかけるだけでなく、海外からも副首都として認知されるように発信してほしいです。
4. 正直言ってよくわかりませんでした。副首都という定義がないのは以前にも伺いましたが、「首都機能を高める」の「首都機能」とは何なのでしょう。立法、司法、行政のバックアップ機能を備えることが首都機能を備えることだと自分は思うのですが、そのような説明はありませんでした。お話では副首都計画というよりも大阪の成長戦略のように聞こえました。
5. 首都の定義が自分の中でいまいち定まってはいませんが、結局のところ副首都としてどうありたいのか、目標がよく分からないと感じました。まず、副首都として認められるために大阪が行う取組みは東京のようなインフラの整備や産業・人材の育成がありましたが、結局そのように「東京化」しても西日本の首都に繋がるとは想像できにくいし、政治的・行政の面で分権が進むことは別個の問題であるのではとも思いました。日本の成長力を高めるため、また想定外の大災害時のバックアップ機能を果たすためという点については納得できる点も多いですが、大阪と関西、また西日本全体の関係性をより考慮することを重要視し、その上で取り組むべきことを定めていくべきではと感じます。
6. 副首都ビジョンについては機能・制度・経済成長面といった各視点から具体的な事業の内容等について詳述されており大阪の成長に向けて実効性があるものだと感じました。しかし一方で京都、神戸等の関西主要都市の存在を抜きには関西全体の経済発展について考える事は難しい事からも他の都市の副首都ビジョンへの関与を促す事が重要だと考えました。また、特にベンチャー育成や特区の創設など関西初のイノベーションを誘発する政策は重要であると感じました。
7. 副首都ビジョンの意義が何なのか結局よくわからなかった。副首都ビジョンという言葉だけ聞くと、首都直下型地震が起こるなど東京の首都機能が壊滅した場合に備えて、大阪に東京の首都機能のバックアップをつくるというイメージだった。しかし今回の話を聞いてみると、副首都ビジョンは自分のイメージとは違い、大阪の経済面での成長戦略といった感じのもので、違和感を覚えた。
8. 「副首都」という状態が達成された目安や定義などがはっきりしていない以上、ゴールなくただなんとなく大阪を発展させよう！と言っているようにしか思えず、あまり将来的なビジョンを思い浮かべることができなかった。「副首都になるためにすること」を考える前に、ま

ずは「どうなれば副首都なのか」という定義をはっきりと決め、その上で戦略を練った方が良いのではないかと思った。成長戦略については、大阪のみならず、関西や日本全体でも問題となっている事項に対しての取り組みが多く見られ、大阪が先進的に取り組んで行くことで、他の地域に対してもモデルとなっていってほしいと感じた。

9. IR 及び万博を誘致して、その経済活力を推進力として前に進めていこうという方向性はいいと思ったが、その誘致にかかっている気もするので積極的に取り組まなければならないと思われる。新たな大都市制度自体は素晴らしい発想であると思うが、質問でも出たように「他の都市のメリットは？」というところも明確にし、大阪だけではなく全国的に構想を支援する流れを形成する必要がある。もちろん投票に他地域の住民は参加しないが、新たな大都市制度が大阪だけのためのものではない、日本全体に寄与するものだアピールすることは、そのあとの戦略の展開にも大いに役に立つと考えられる。
10. 東京の一極集中の是正は各方面で要請されており、地理的条件、経済規模などを考慮した場合、副首都として最も望ましいであろう大阪自身が副首都実現に向けて積極的に取り組んでいることは、大阪にとってはもちろんのこと、日本全体にとっても大きな意義があると感じた。一方で、大阪の成長戦略については、特に経済面で、万博や IR の話題が先行している感が否めず、他のプランが既存の施策と大差ないような印象を受けたので、万博や IR が実現できない可能性があることを考慮すると、大阪の成長が本当に達成できるのか疑問に感じた。
11. 副首都という定義があいまいであるが、結局のところ大阪、関西における経済の活性化ができればいいという風に考えている。東京と違って、京阪神に大きく広がっているので、あえて密集させずに進めるのがいい気がした。ただ、イギリスでもロンドンへの一極集中や東南アジアでも都市への集中が進んだりしていることを考えると、副首都との分散というのは難しいのではないだろうか。
12. 「副首都ビジョン」名前だけ聞いたらとてもカッコいいけど、結局何がしたいのかよくわかりませんでした。なんか全部をうまくやろうとし過ぎていて最終的には全部が中途半端に終わるような気がします。またその方向性も東京の下位互換を目指すものでしかなく、なんかおもしろいなと思いつつ聞いていました。そんなことをするより、もっと大阪にしかない魅力に目を向け、それを伸ばしていくという方向の方がいいのではないかと直感的に感じます。個人的には、大阪という都市を、きちっと整備され、美しい町に仕立て上げるのではなく、泥臭くても、どこか愛嬌のある、おもしろい町にするのがいいと思います。なんかこの意見もぼんやりとしていてわかりにくいですが、例えば、今ある商店街をより魅力的にするとか、大阪という町をより深く知るための授業を学校で実施するとかでしょうか。なんか「おお、やっぱ大阪おもしろいな」とか「こういうことは大阪だけにしかできひんな」って思われるような都市計画であれば、東京に次ぐ第二の都市として大きく魅力を増すのではないのでしょうか。
13. 副首都ビジョンについては、正直あまりイメージがわかりませんでした。説明して下さったことは、たしかに達成すべきだと思いましたが、(東京の一極集中を防ぐなど) そうするために

必ずしもあいまいな概念である副首都に、大阪指定しないといけないのかなと思いました。また、質問でもありましたが、大阪の副首都化に対する、神戸や京都の対抗はないのか、その協力をどのようにして得るのかはもっと考えていかなければならないのかなと感じました。

14. 副首都という名前にこだわらず、東京の機能が停止しても日本全体の機能は大きく停止しないといったシステムの構築が大切なのではないかと思う。大阪だけが、東京のバックアップ機能を担うのではなく、他の主要都市で分担して、どの都市の機能が停止しても、他の地域では普段通りの生活が可能で、迅速に機能復帰のサポートが行えるような体制づくりを目指すべきだと思う。
15. 大阪の経済発展を描くうえで、副首都という構想があることを知った。しかし、パンフレットの中身を見てもあまりよく分からず、あまり具体的なプランにはなっていないのではないかと感じた。また、首都さえ法律で定められていない日本においては、ビジョンの達成度合いを測る指標を設けることも難しいのだろうと感じた。副首都構想の具体化や実践は難しいかもしれないが、大阪を発展させていくために必要かつ実現可能な施策を実施して欲しいと感じた。

以上